

## 公開シンポジウム「日韓の教育改革の行方」

主催：京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター  
（共催： 日中教育共同研究センター、  
グローバルCOE「心が活きる教育のための国際的拠点」）

日時：2009年7月31日（金）  
14：00～17：00（13：30より受付開始）

場所：芝蘭会館別館 研修室1

司会：田中耕治(本学研究科教授)、杉本均(本学研究科教授)

発表者：白 淳根 氏（韓国 ソウル大学教育学科教授）  
「韓国における教育改革の動向」

磯田 文雄 氏（文部科学省研究振興局局长）  
「日本における教育改革の動向」

西岡 加名恵 氏（京都大学教育学研究科准教授）  
「日本における教育評価改革の動向」

### 目的・内容

韓国では、教育課程評価院（日本の国立教育政策研究所に該当する、教育課程行政をリードする組織）によって1997年より国家的な教育評価改革が進められている。この改革は、アメリカを発信源とする「真正の評価」論に基づく「遂行評価」を入試改革、教育課程、授業における評価にまで広く導入するものであり、非常に先進的なものである。一方、日本においても2008年3月に学習指導要領の改訂が行われ、それに伴った指導要録の改訂が現在進められており、「真正の評価」論をはじめとして教育評価改革の動向が注目されている。

本シンポジウムでは、2008年7月開催の「日中韓の教育課程・教育評価改革の動向」をさらに発展させ、韓国の教育評価改革をリードする立場である白淳根氏を招聘し、改革の背景や動向、課題について報告していただく。そして今回のシンポジウムでは、文部科学省研究振興局長の磯田文雄氏をお招きし、学術研究の振興という見地から日本の教育改革についてご報告いただく貴重な機会を得ることとなった。また日本の教育評価改革の動向と課題については、本学研究科の西岡加名恵准教授にご報告いただく。これらの報告をもとに活発な意見交流を行うことによって、日本と韓国の共通のテーマを見出し、今後の共同研究の方向性を明らかにすることを目的としている。

日本と韓国の教育課程・教育評価改革が進むべき方向性やこれから予測される課題について、それぞれの改革を担う第一人者から学び、日韓で共有・交流することの意義は非常に大きい。さらに本シンポジウムは、京都大学教育学研究科と韓国・教育課程評価院との学術交流協定の締結をめざし、今後の共同研究を進める契機・基盤としても位置づくものとして、重要な意味を持つ事業となる。